

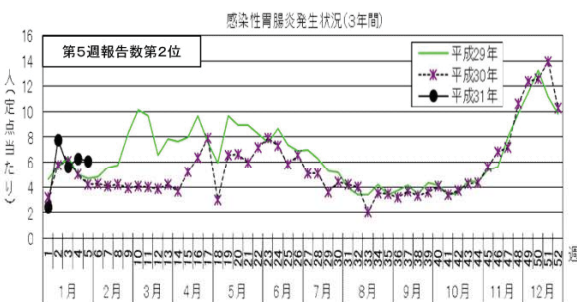
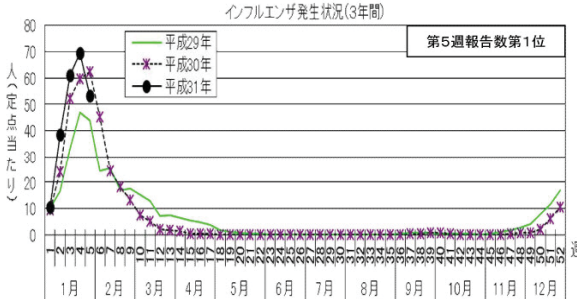
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年1月28日(月)～平成31年2月3日(日)〔平成31年第5週〕の感染症発生状況

第5週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は53.39人と前週(69.41人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.14人と前週(6.30人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.27人と前週(2.24人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

★風しんウイルス★  
ルペラくん



## 川崎市における風しんの無料抗体検査とワクチン接種費用の助成

昨年の夏以降、全国的に風しんの患者報告数が増加しています。川崎市においても平成30年には110件もの報告があり、平成31年は第5週(1月28日～2月3日)までにすでに10件の報告がありました。

風しんは、妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴などの症状を呈する先天性風しん症候群(CRS)の児が生まれる可能性があります。風しんの流行がない時期にはCRSの報告はありませんでしたが、今年に入って全国で1件の報告がみられています。

本市では、妊婦への感染を防ぐために、30～50歳の男性にも対象を拡大して無料の抗体検査を実施しています。大きな流行がくる前に、出来るだけ早く抗体検査を行い、抗体価の低い方はワクチン接種を御検討ください。

### 平成30年度川崎市風しん対策事業について

川崎市では、市内の協力医療機関で無料の抗体検査を平成31年3月31日まで実施しています。

#### 1)風しん抗体検査

【対象者】

- 本市の事業を利用したことがない川崎市民で、次のいずれかに当てはまる方
  - ・妊娠を希望する女性
  - ・妊娠を希望する女性のパートナー
  - ・妊婦のパートナー
  - ・30～50歳の男性(昭和34年4月2日～平成元年4月1日生の方まで)

【自己負担額】無料

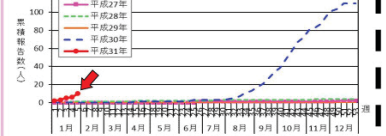
#### 2)麻しん風しん混合ワクチン接種

【対象者】風しん抗体検査の結果、抗体価が十分でなかった方

【自己負担額】3,200円

### 川崎市における風しん累積報告数

～平成27年第1週～平成31年第5週～



### 風しんワクチン接種の実施状況(生年月日別)

女性		男性
～昭和37年4月1日	定期接種なし	定期接種なし
昭和37年4月2日～昭和44年4月1日	中学生の時に1回接種済(定期)	定期接種なし
昭和44年4月2日～昭和52年4月1日	中学生の時に1回接種済(定期)	定期接種なし
昭和52年4月2日～平成2年4月1日	幼児に1回接種済(定期)	定期接種済(定期)
平成2年4月2日～	2回接種済(定期)	定期接種済(定期)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

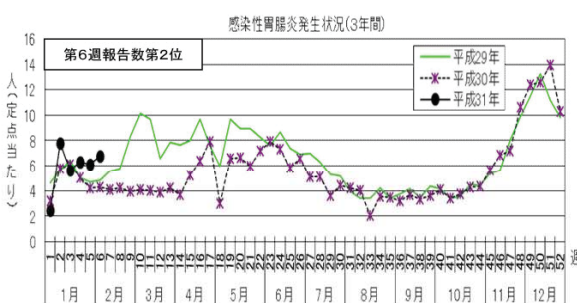
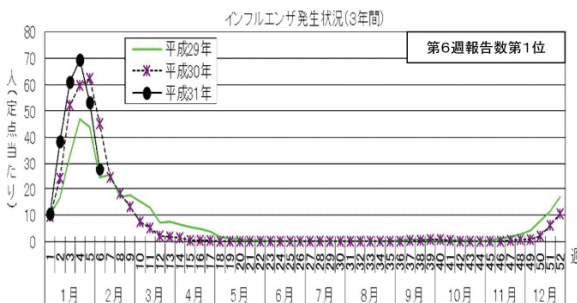
# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年2月4日(月)～平成31年2月10日(日)〔平成31年第6週〕の感染症発生状況

第6週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は27.87人と前週(53.39人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.78人と前週(6.14人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.62人と前週(2.27人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

★麻しんウイルス★  
はしかくん



## 全国的な麻しん(はしか)の発生にご注意ください！！

麻しんは、麻しんウイルスを原因とする急性の熱性発疹性疾患ですが、昨年11月から全国的に患者報告数が増加しています。特に、年始以降は東海、関西地方を中心に流行がみられています。

現在、川崎市における報告はありませんが、近隣の自治体では患者の発生がみられているため、定期予防接種の対象者は早めに接種を済ませましょう。罹患歴、ワクチン接種歴のいずれもない方にも予防接種をおすすめします。

### 気を付けたいポイント

現在、国外の麻しん流行地からの帰国者だけでなく、国内で発生している地域に旅行歴のある方からも麻しんの発生がみられています。

麻しんの特徴を知って、感染が疑われる場合には、必ず事前に電話で症状や旅行歴などを伝え、上で、医療機関を受診しましょう。

#### 【感染経路】

空気感染、飛沫感染、接触感染

#### 【潜伏期間】

7～18日間(最長21日程度)

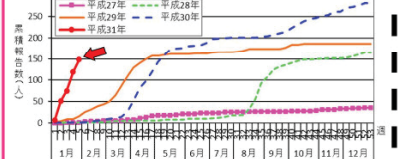
#### 【主な症状】

発熱、発疹、咳、鼻汁、結膜充血など



### 全国における麻しん累積報告数

～平成27年第1週～平成31年第5週～



### 麻しん・風しん(MR)定期予防接種の対象者

【第1期】

生後12月から生後24月までの間にある者

【第2期】

小学校就学前の年度1年間(4月1日～翌年3月31日)

※MRワクチンを接種することで、麻しんだけでなく、昨年の夏以降、全国的に流行がみられている風しんも予防することができます。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

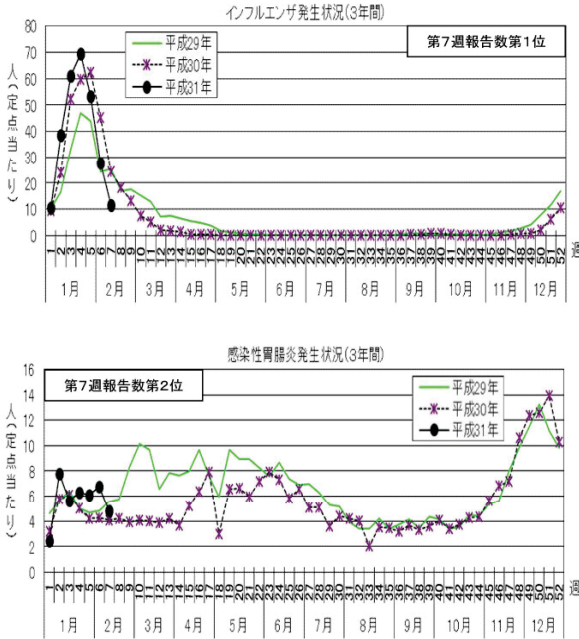


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年2月11日(月)～平成31年2月17日(日)【平成31年第7週】の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.44人と前週(27.87人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.81人と前週(6.78人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.46人と前週(2.62人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



## 発熱を伴う発疹には注意しましょう！！～麻疹・風しん～

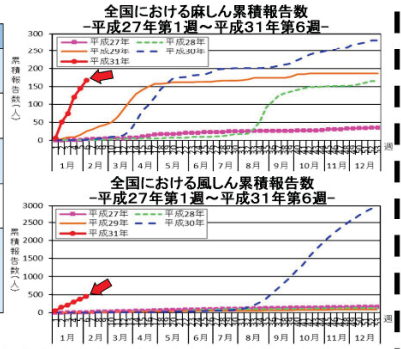
麻疹・風しんは、急性の熱性発疹性疾患の代表的な感染症です。麻疹は、今年の1月上旬以降、関西地方などを中心に報告数が急増しています。風しんは、昨年の夏以降、全国的に報告数が増加しており、川崎市においても平成31年、第7週(2月11日～2月17日)までに既に17件の報告がありました。

麻疹や風しんの抗体を持っていない方は感染の危険が高いため、周囲の流行状況や流行地域への旅行などには十分な注意が必要です。いずれの疾患もワクチン接種が有効で、麻疹風しん混合(MR)ワクチンを接種することで予防が可能です。

### 麻疹、風しんの主な特徴

	麻疹	風しん
感染経路	空気感染、飛沫感染、接触感染	飛沫感染
潜伏期間	7～18日間(最長21日程度)	2～3週間(平均16～18日間)
発熱、発疹以外の主な症状	咳、鼻汁、結膜充血、眼脂など	リンパ節の腫れなど
感染可能期間	発熱1日前から発熱後3日	発疹出現の1週間前から1週間後
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>不顕性感染はほとんどない</li> <li>妊婦が感染すると流産や早産の可能性あり</li> <li>抗体価が不十分な方は、麻疹風しん***に罹患する可能性あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不顕性感染あり(15～30%程度)</li> <li>妊婦が感染すると先天性風しん症候群の児が生まれる可能性あり</li> </ul>

\*ウイルスに感染しても明らかな症状がみられない状態  
\*\*妊婦から胎児への麻疹ウイルスの感染による先天異常  
\*\*\*75%程度の確率で再発性の麻疹(感染力は低い)発症になる



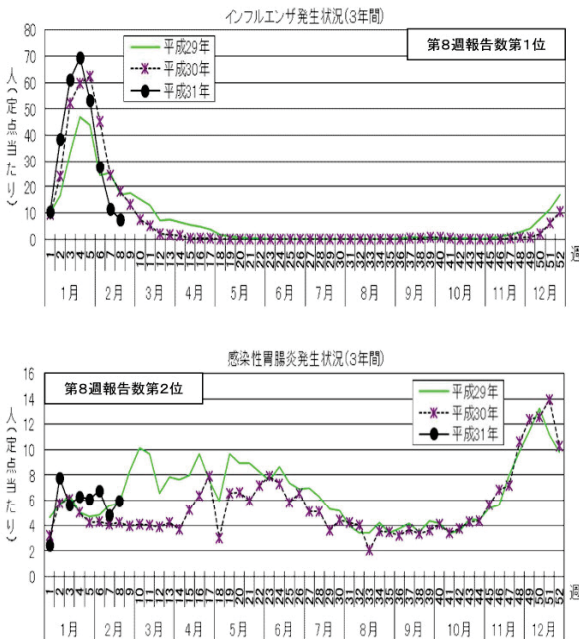
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年2月18日(月)～平成31年2月24日(日)【平成31年第8週】の感染症発生状況

第8週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は7.48人と前週(11.44人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.95人と前週(4.81人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.68人と前週(2.46人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



## 「子ども予防接種週間」3月1日(金)～3月7日(木)

3月1日～3月7日は「子ども予防接種週間」です。予防接種には、対象疾患・対象者・接種期間などが定められた定期予防接種と、希望者が各自で受ける任意予防接種があり、いずれも接種することで病気を予防することができます。

特に、麻疹はワクチンで予防できる疾患にもかかわらず、現在、全国における報告数が急増しています。川崎市においても、平成31年第8週(2月18日～2月24日)に麻疹の報告が1件ありましたので、麻疹・風しん混合(MR)ワクチン接種対象者のお子さんは、出来るだけ早く接種を済ませましょう。

### 子どもの定期予防接種と任意予防接種の種類

- ＜定期予防接種＞
- ✓Hib感染症(ヒブワクチン)
  - ✓小児の肺炎球菌感染症(小児用肺炎球菌ワクチン)
  - ✓B型肝炎
  - ✓ジフテリア、百日咳、ポリオ、破傷風(1期: DPT-1PV)(2期: DT)
  - ✓BCG(結核)
  - ✓麻疹・風しん(MR)
  - ✓水痘(水ぼうそう)
  - ✓日本脳炎
  - ✓ヒトパピローマウイルス感染症(HPVワクチン)
- ＜任意予防接種＞
- ✓ロタウイルス
  - ✓おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)
  - ✓インフルエンザなど

全国における麻疹累積報告数 -平成27年第1週～平成31年第7週-

●定期予防接種を受けられる医療機関  
川崎市予防接種個別協力医療機関  
●予防接種を受けるときに持っていくもの  
①川崎市予防接種予診票  
②母子健康手帳(忘れずに!!)  
●予防接種の費用  
定期予防接種: 無料 (詳細については、川崎市のホームページをご覧ください)  
任意予防接種: 有料 (医療機関ごとに料金は異なります。)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250



# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年2月25日(月)～平成31年3月3日(日)〔平成31年第9週〕の感染症発生状況

第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.43人と前週(5.95人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は4.25人と前週(7.48人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週(3.68人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



## 知っていますか？～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～

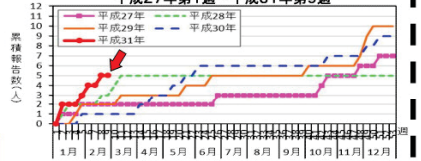
劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的な四肢の痛み・腫れ、発熱、咽頭痛などから始まり、発病後数時間以内に腫れた部分が壊死(細胞が破壊され組織が死んでしまうこと)を起したり、多臓器不全やショック状態から死に至ることもある細菌感染症です。

川崎市においては、年間5～10件程度で推移していますが、平成31年は1月下旬以降報告が相次ぎ、第9週(2月25日～3月3日)までに5件の報告がありました。症状の進行が早く、重症化する可能性もあるため、原因不明の四肢の突然の痛みなどがみられた際は早めの受診を心掛けましょう。

### 劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

- 【病原体】主にA群溶血性レンサ球菌
  - 【感染経路】上気道感染、創傷感染、手術部位感染など
  - 【好発年齢】30歳代以上
  - 【治療】抗生剤治療、病変部の切除など
- ※早期発見、早期治療が重要です！

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症累積報告数 -平成27年第1週～平成31年第9週-



川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症性別・年齢階級別発生状況 -平成27年第1週～平成31年第9週-



川崎市においては、平成27年第1週から平成31年第9週までに36件の報告があり、男性が69.4%を占め、70歳以上が5.5%と半数以上を占めています。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年3月4日(月)～平成31年3月10日(日)〔平成31年第10週〕の感染症発生状況

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.32人と前週(5.43人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.43人と前週(3.00人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.23人と前週(4.25人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

水痘・帯状疱疹ウイルス

★ミスボくん★



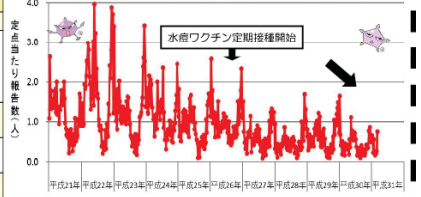
## 知っておきたい感染症～水痘(みずぼうそう)～

水痘は、水痘・帯状疱疹ウイルスの初感染によって引き起こされる水疱を伴う発疹性の感染症です。小児では、平成26年10月に水痘ワクチンが定期接種化され、全国的に患者報告数は大きく減少しましたが、定期接種を受けていない年代においては現在も流行がみられます。また、水痘・帯状疱疹ウイルスは感染後長期間にわたり神経の中に潜伏するといわれており、過労や免疫機能の低下等により、再び活性化して帯状疱疹を発症します。

### 水痘、帯状疱疹の主な特徴

	水痘	帯状疱疹
病原体	水痘・帯状疱疹ウイルス	水痘・帯状疱疹ウイルス
感染様式	空気感染、飛沫感染、接触感染等により感染した後、2週間程度(10～21日)で発症	初感染後、ウイルスが神経の中に長期潜伏し、過労や免疫機能の低下等により、再び活性化して発症(再発感染)する可能性がある
好発年齢	9歳以下の学童期	50歳以上(発症率は、加齢に伴い増加傾向)
主な症状	発熱、発疹(水疱瘡)、かゆみ等	ビリビリとした皮膚の痛み、かゆみ、発疹等
経過	通常、発疹は経過とともに痂皮(かさぶた)化し、約1週間で治癒	通常、発疹は神経が通っている部分に沿って出現し、痂皮化して約3週間で治癒
合併症	帯状疱疹や皮膚の二次性細菌感染、肺炎、髄膜炎・脳炎等	帯状疱疹後神経痛* ※帯状疱疹の発症の症状が治まった後も長期間にわたって痛みが残る
ワクチン	定期接種 対象者：生後12月(1歳)から生後36月(3歳)に至るまでの間	任意接種 対象者：50歳以上

川崎市における水痘発生状況(10年間) -平成21年第1週～平成31年第10週-



### 帯状疱疹はワクチン(任意)で予防できます！

我が国では、高齢者の帯状疱疹予防を目的として、平成28年3月から50歳以上の方を対象に水痘ワクチンを使用できるようにしました。  
※生ワクチンであるため、白血球、抗がん剤使用中、免疫抑制療法中、AIDS等の免疫不全患者は接種できません。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250



# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年3月11日(月)～平成31年3月17日(日)〔平成31年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.00人と前週(6.32人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.78人と前週(3.43人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.22人と前週(0.33人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



## 気をつけたい感染症～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、学童期の小児を中心に、春から初夏(5月～6月)及び冬季(11月～12月)に流行がみられる細菌感染症です。

川崎市では、平成31年2月下旬以降、患者報告数が例年よりやや高いレベルで推移しており、第11週(3月11日～17日)の定点当たり患者報告数は3.78人と2週連続で増加しました。特に川崎区、高津区、多摩区からの報告が多くなっています。例年、初夏に流行のピークを迎えるため、今後も患者数の増加が予想されます。感染を広げないためにも予防対策を徹底しましょう。

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

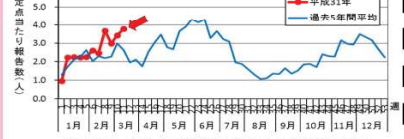
感染経路：接触感染、飛沫感染  
 潜伏期間：2～5日間  
 主な症状：突然の発熱、全身倦怠感、咽頭痛、  
 莓舌(イチゴのように赤くボツボツした状態)、  
 体や手足に小さくて紅い点状発疹  
 予防対策：患者との濃厚接触を避ける、手洗い等

### 早めに医療機関を受診しましょう！

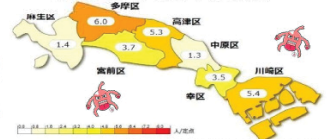
治療には抗菌薬が有効です。肺炎、リウマチ熱、急性糸球体腎炎等の合併症を防ぐためにも、早めに医療機関で診断を受けて、主治医の指示とおりに薬を服用しましょう。なお、薬は最後までしっかりと飲むことが大切です。

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況

—平成31年と過去5年間平均の比較—



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎分布マップ(平成31年第11週)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年3月18日(月)～平成31年3月24日(日)〔平成31年第12週〕の感染症発生状況

第12週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.16人と前週(6.00人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.05人と前週(3.78人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.98人と前週(1.08人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



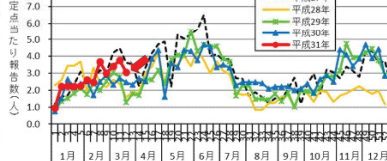
## 新年度を元気に迎えましょう！！

川崎市では現在、全体的に感染症の報告数は減少傾向です。しかし、新年度を迎え、保育園や学校での集団生活が始まったり、会社で人との接触が増えると、感染症にかかる機会が増加します。感染症に対する正しい知識を身に付けることで、自分自身や周りにいる大切な人たちを感染症から守り、4月からの新しい生活を元気にスタートさせましょう。

### 春～初夏に流行する感染症

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況

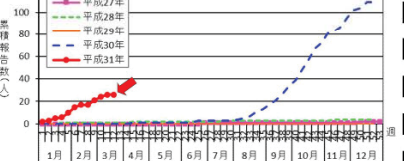
—平成27年第1週～平成31年第12週—



### 今後も注意したい感染症

川崎市における風しん累積報告数

—平成27年第1週～平成31年第12週—



### 感染症にかからないために気をつけたいこと

- ① 予防接種
- ② 手洗い
- ③ マスク着用
- ④ 十分な睡眠
- ⑤ バランスのとれた食事

### 小学校入学前の接種を忘れずに！

麻しん風しん混合ワクチン(MR)  
 【第2期接種対象者】  
 小学校入学前の年度1年間  
 (4月1日～翌年3月31日)



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250



# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年3月25日(月)～平成31年3月31日(日)〔平成31年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.92人と前週(5.16人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.49人と前週(3.05人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.72人と前週(0.98人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

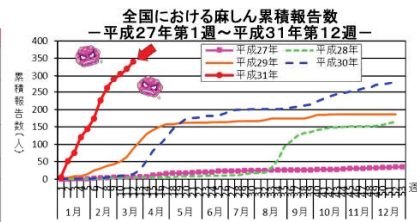


## 全国各地で麻疹(はしか)が発生しています！！

現在、全国的に麻疹の患者報告数が増加しており、川崎市においても平成31年第13週(3月25日～3月31日)に1件の報告がありました。麻疹は基本的にはワクチンで予防できる疾患です。ワクチン接種歴のある方が発症することもあります。多くが修飾麻疹として未接種の方に比べて軽症の経過をたどります。定期予防接種の対象の方は、確実に接種を済ませ、感染及び重症化を防ぎましょう。

麻疹(典型例)、修飾麻疹の主な特徴

	麻疹(典型例)	修飾麻疹
潜伏期間	7～18日間(通常21日程)	麻疹(典型例)より長い
発熱	38.0程度の発熱が2～3日続いた後やや低下し、再び39.0以上の高熱が出現	高熱はみられず、発熱期間も短い
症状	全身性の丘疹で、顔紅色となり融合傾向を示す	限局的で、赤みも薄い
風疹様症状	あり	ないことが多い
コブクダシ・色素沈着	ほほの内側の特徴的な発疹や回復期の色素沈着などを認める	明らかなのは認めない
ワクチン接種歴・罹患歴	なし	ワクチン接種歴が1回以上又は未接種でも麻疹歴あり
周囲への感染力	あり	弱いが感染源となる可能性あり



麻疹に感染した疑いがある場合

感染が疑われる場合には、事前に電話で症状や旅行歴などを伝え、医療機関を受診しましょう。また、受診の際は、事前に母子健康手帳でワクチン接種歴を確認し、必ず主治医に伝えてください。



麻疹の予防も兼ねて、麻疹風しん(MR)ワクチンの2回接種がおすすめです！

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年4月1日(月)～平成31年4月7日(日)〔平成31年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.22人と前週(4.92人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.49人と前週(2.49人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.77人と前週(0.72人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

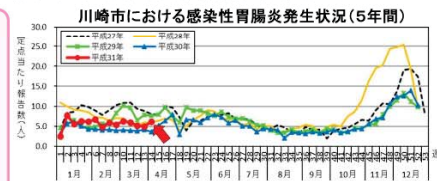


## ロタウイルスによる感染性胃腸炎の感染に注意しましょう！

感染性胃腸炎はウイルスや細菌などを原因とし、下痢や嘔吐を主症状とする感染症です。例年、流行のピークとなる11月～1月はノロウイルスを原因とする胃腸炎が多く、3月～5月にかけてはロタウイルスによる乳幼児の胃腸炎が増加します。川崎市においては、昨年の12月をピークに感染性胃腸炎の報告数は減少してきましたが、平成31年第14週(4月1日～4月7日)の定点当たり報告数は6.22人と前週の4.92人から増加し、ロタウイルスによる胃腸炎も報告され始めました。ロタウイルスによる胃腸炎は乳幼児に好発し、年齢が低いほど重症化する可能性が高いため、任意接種ではありますがワクチンによる予防を御検討ください。

ロタウイルスによる感染性胃腸炎

- 感染経路 経口感染
- 潜伏期間 2～4日間
- 主な症状 下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛など
- 合併症 脱水、けいれん、肝機能異常など  
重症例では、脳症、心筋炎、急性腎不全などもみられる。  
※けいれんや意識障害などの症状がみられたら、速やかに医療機関を受診しましょう。



ロタウイルスワクチンの接種スケジュールについて

	1価ロタウイルスワクチン(ロタテック®)	5価ロタウイルスワクチン(ロタテック®)
接種可能期間	生後6週から24週までの間	生後6週から32週までの間
接種回数	2回	3回
接種間隔	前回接種から27日以上	前回接種から27日以上

※両ワクチンともに、初回接種は生後14週6日までに行うことが推奨されています

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250



# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年4月8日(月)～平成31年4月14日(日)〔平成31年第15週〕の感染症発生状況

第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.14人と前週(6.22人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.97人と前週(2.32人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は1.66人と前週(0.77人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

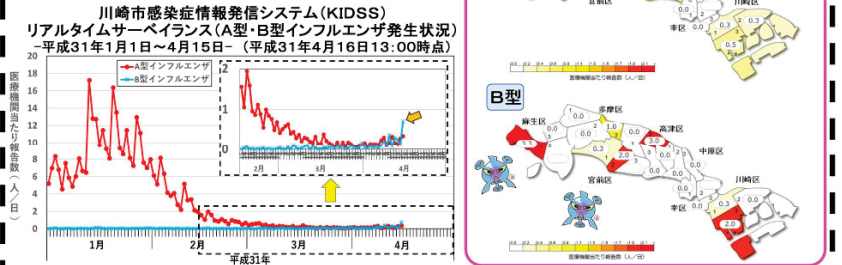
★インフルエンザウイルス★  
インフルーくん



## 今シーズン2度目の流行期～インフルエンザ～

川崎市におけるインフルエンザの流行は、平成31年第12週(3月18日～3月24日)以降、流行の目安である定点当たり1.00人を下回り、非流行期となっていました。第15週(4月8日～4月14日)に定点当たり患者報告数が1.66人となり、再び流行期となりました。

本市のリアルタイムサーベイランスによると、4月上旬からB型インフルエンザの報告数が地域的に増加し、麻生区の小学校ではB型インフルエンザによる学級閉鎖も報告されています。4月ではありますが、引き続き手洗いや咳エチケットなどの予防対策を心がけましょう。



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)リアルタイムサーベイランス(A型・B型インフルエンザ発生状況) -平成31年1月1日～4月15日-(平成31年4月16日13:00時点)  
 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年4月15日(月)～平成31年4月21日(日)〔平成31年第16週〕の感染症発生状況

第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.57人と前週(6.14人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.57人と前週(2.97人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.36人と前週(1.66人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



## ゴールデンウィーク前に十分な麻しん対策を！！

海外では、アジアやアフリカだけでなく、現在はアメリカやヨーロッパを含め世界各地で麻しんが流行しています。国内においても、関東や関西地方を中心に麻しん患者の報告があり、ゴールデンウィークで人の移動が多くなると、思わぬところで感染が広がる可能性があります。

麻しんに対する予防としてはワクチン接種が有効です。一般的に、接種後2週間程度で免疫がつくため、流行地に出かける場合は接種時期が早いほど効果も高くなります。現時点で接種歴及び罹患歴のいずれもない方は、連休前になるべく早くワクチン接種を御検討ください。



世界における麻しんの報告数 -平成30年9月～平成31年2月-  
 世界保健機関(WHO)ホームページから引用

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250

麻しん風しん混合(MR)ワクチンを接種することで、麻しんだけでなく風しんも予防することができます。





# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成31年4月22日(月)～4月28日(日)〔第17週〕及び4月29日(月)～5月5日(日)〔第18週〕の感染症発生状況  
 第17・18週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。  
 第17週は、感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数が8.59人と前週(8.57人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 第18週はゴールデンウィークで、多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



## 大型連休後の体調の変化に注意しましょう！！

大型連休中には、海外だけでなく国内の様々な場所へ旅行された方も多いか  
 と思います。現在、国内外を問わず様々な感染症の流行がみられます。体調を  
 崩された時は早めに医療機関を受診し、担当医には症状だけでなく旅行先や滞  
 在期間なども必ず伝えましょう。

### ＜発熱をきたす感染症＞

麻疹、デング熱、マラリア、  
各種細菌感染症など



発熱が長くなど全  
身状態が悪い場合  
は重症化の可能性  
もあります。

### ＜発疹をきたす感染症＞

麻疹、風しん、デング熱、  
ジカウイルス感染症など



かゆみを伴うも  
のはアレルギー  
の可能性もあり  
ます。

### ＜下痢をきたす感染症＞

細菌性赤痢、腸チフス、  
コレラ、O157\*など



激しい腹痛や血  
便などがみられ  
る際は特に御注  
意ください。

現在、国内では首都圏など大都市を中心に麻疹、風し  
んが流行しています。いずれも急性の熱性発疹性疾患です  
が、麻疹は感染力が非常に高く、免疫のない方が患者と  
接触するとほぼ100%発症します。風しんは15～30%  
程度が不顕性感染で、比較的軽症な疾患ですが、妊娠20  
週頃までの妊婦が感染すると、白内障、先天性心疾患、難  
聴などの症状を呈する先天性風しん症候群の児が生まれる  
可能性があります。

麻疹、風し  
んに感染しな  
いためには、  
MRワクチン\*  
の接種が有  
効です。



\*麻疹風しん混合ワクチン

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター  
 (福祉事務所・保健所支所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年5月6日(月)～令和元年5月12日(日)〔令和元年第19週〕の感染症発生状況  
 第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.16人と前週(3.35人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週(1.24人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.22人と前週(0.00人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

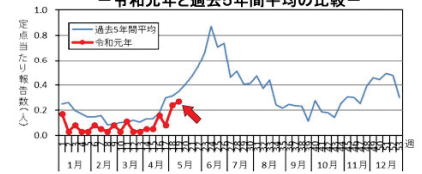


## これから気をつけたい感染症～咽頭結膜熱～

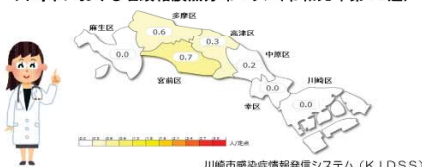
咽頭結膜熱はアデノウイルスを原因とする感染症で、通常初夏に流行します。  
 川崎市では、令和元年第19週(5月6日～5月12日)の定点当たり報告数が  
 0.27人となり、5月以降、特に宮前区、多摩区、高津区で報告数が増加して  
 います。アデノウイルスは感染力が強く、飛沫や接触により感染します。保育園  
 や幼稚園などの集団施設では、手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

なお、インフルエンザについては、令和元年第18週(4月29日～5月5日)  
 の定点当たり報告数が0.86人とな  
 り、流行の開始の目安である定点当  
 たり1.00人を下回ったため、非流行  
 期となりました。

川崎市における咽頭結膜熱発生状況  
 ー令和元年と過去5年間平均の比較ー



川崎市における咽頭結膜熱分布マップ(令和元年第19週)



### 咽頭結膜熱とは？

#### 【潜伏期間】

5～7日間

#### 【主な症状】

突然の発熱(39℃前後)、喉の痛み、  
結膜充血、目の痛み、目やになど

#### 【予防方法】

- ・流水や石鹸による手洗いを徹底する。
- ・タオル類やおもちゃの共用は避ける。
- ・プール利用前後にシャワーを浴びる。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター  
 (福祉事務所・保健所支所)  
 (問い合わせ先) 044-276-8250